

BIMのデータライブラリーを提供する BIMobjectAB との新会社 BIMobject Japan 株式会社 設立記念祝賀会を開催いたしました

野原ホールディングス株式会社(本社：東京都新宿区、代表取締役社長：野原数生)は、BIM データライブラリーの「BIMobject®」を世界的に展開する BIMobjectAB(本社：Malmö、Sweden、CEO：Stefan Larsson、NASDAQ 上場)との新会社である、BIMobject Japan 株式会社の設立記念祝賀会をスウェーデン大使館にて約 100 名の参加にて開催いたしました。

<実施概要>

日時：2018年1月31日(水)17:30～

会場：スウェーデン大使館

イベントの様子 ～フォトギャラリー～



■BIMobject 社 CEO Stefan Larsson(ステファン・ラーション)

<挨拶内容>

BIMは単なる 3D データではありません。
BIM データには商材の属性情報が含まれており、設計時だけでなく、建物のライフサイクルマネジメントにおいても活用できます。世界では BIM データを使用した設計が標準になっています。
メーカーにとっては、建物の設計段階でいかに自社の商材が組み込まれるかがマーケティングのポイントになります。一方で、商材のデジタルレプリカがないと、BIM による設計プロセスに組み込まれません。これからは、商品情報のデジタル化によるデジタルマーケティングに注力することが重要です。



■野原ホールディングス(株) 代表取締役社長 野原数生

<挨拶内容>

野原グループは昨年、創立 70 周年を迎え、ホールディングス体制に移行しました。新しいタグライン「Link ideas. Build future. 思いをつなげ、未来をつくる」を念頭に多様なビジネスフィールドで未来を創り続けることを目指しています。
BIMobject Japan のプラットフォーム事業には、今の野原グループをデジタル表現した新たな「カタチ」となる大きな可能性を感じています。
今後も、常に「野原グループに触れれば、何か新しいことに出会えるね」と、期待感を持っていただけるグループであり続けたいと考えておりますので、皆様の倍旧のご支援をお願い申し上げます。

～基調講演～ 建設業界において、大変著名なお二方にお越しいただき、ご祝辞を頂戴しました。

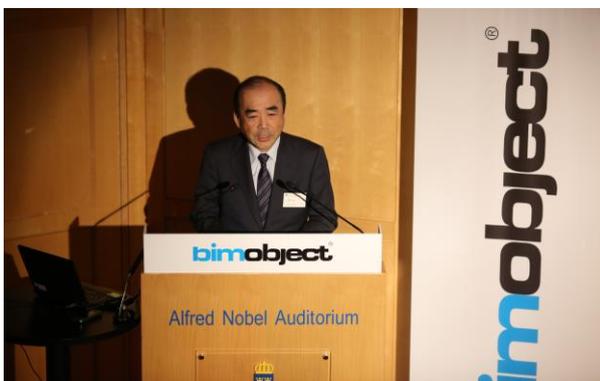


■公益社団法人 日本建築家協会 (JIA) 会長 六鹿正治様
(株式会社日本設計 最高顧問)

＜ご祝辞より抜粋＞

日本国内だけで通じるシステムや習慣だけで限界がありません。シンガポール、イギリス、アメリカでは BIM の活用を国家レベルで進めています。今や、建築も都市開発も経済全体も世界とつながっています。日本の建築家の国際競争力を維持向上させるためにも、日本も世界から孤立した遅い動きでは済みません。

建材や機器のデジタル情報プラットフォーム作りを目指す BIMobject Japan の設立は、時宜を得た動きであると大いに期待しています。



■株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役社長 佐野吉彦 様
(日本建築士事務所協会連合会会長)

＜ご祝辞より抜粋＞

BIM は、いまや、世界標準言語です。国内外を問わず、建築生産プロセスにおいて建築家/建築設計者が確実なリーダーシップをとって進めるための有力なツールであると確信しています。

BIM はすべての人の益となる社会基盤になるはずですが。

BIM を一人でも多くの人が使いこなすことによって、社会の発展につながります。

BIMobject Japan においては、BIM の持つ先鋭性と可能性、社会的な使命を引き出していただき、社会のクオリティ工場につながるよう、奮闘をお願いします。



■BIMobject Japan の若きリーダーを囲んで

左から

野原ホールディングス(株) 代表取締役社長 野原数生、

BIMobject Japan(株)代表取締役社長 東政宏、

BIMobject 社 CEO Stefan Larsson



■レセプションパーティーの様子

BIMobject Japan 株式会社について

<日本国内建設業界における情報革命>

3次元の建築モデルを使って設計情報と建材や設備の属性情報を一つのデータに集約管理する「BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）」は、日本の建設業界でも、新しい建築ソリューションとしてその活用が加速度的に進んでいます。

現代は、圧倒的な速度で進化する情報革命の中にあります。既に多くの業界で、革新的なテクノロジーにより業界構造やそのプレイヤーの役割は変化し続けています。建設産業においても同様であり、BIM、AR（拡張現実/Augmented Reality）・VR（仮想現実/Virtual Reality）、IoT（モノのインターネット/Internet of Things）、AI（人工知能:/Artificial Intelligence)などのキーワードがトレンドになりつつあり、バーチャル（仮想）とフィジカル（モノ）の距離は日々縮まっています。

<日本における建設情報のデジタル化による情報価値の最大化に貢献>

BIMobject Japan は、BIMobject 社が世界をリードしてきたテクノロジーと、野原グループが1947年の創立以来(創業1598年)、日本の建設文化に貢献し得られた信用・信頼を融合させ、国内建設業界の重要なデジタル情報の集まるプラットフォームを目指します。

BIMobject Japan は、建物のライフサイクルマネジメントにおいて重要な情報元となる建設資材や設備等のメーカー製品情報のデジタル化を事業の根幹とし、BIMobject のグローバルなクラウドソリューションを通じ、先進的かつ拡張性のあるソフトウェアサービスを提供してまいります。

そして、国内外の建物情報を利用するすべてのユーザー様と、日本のメーカー様の製品情報を繋ぐプラットフォームとなり、日本における建設情報のデジタル化による情報価値の最大化に貢献します。

▼ BIMobject® Cloud Solution

<https://bimobject.com/ja>



<会社概要>

商号	BIMobject Japan 株式会社 (ヒムオブジェクト ジャパン カブシキガイシャ)	
事業内容	建設業界におけるデジタルプラットフォーム事業	
本店所在地	新宿区新宿 1-1-11 友泉新宿御苑ビル 8階	
設立日	2017年12月27日	
資本金	274,214,025円	
株主	(1) 野原ホールディングス株式会社 (49%) (2) BIMobjectAB (51%)	
役員	代表取締役社長	東 政宏 (ヒガシ マサヒロ)
	取締役	野原 弘輔 (ノハラ コウスケ)
	取締役	Johannes Reischboeck (ヨハネス・ライシュブ ック)
	取締役	Simon Xi Cai (サイモン・シー・カイ)
	監査役	山田 正章 (ヤマダ マサキ)

野原ホールディングス株式会社について

2017年に創立70年を迎えた野原グループは、これまで建設業界を中心に建材や鉄鋼関連およびセメントなどの建設資材、道路交通標識などの販売・施工を通して、事業を拡大するとともに、時代の変化に合わせた変革や創造を繰り返しながら成長してきました。2017年7月には、さらに機動力をもって成長を加速させるべく、野原産業株式会社からホールディングス化をいたしました。これまで蓄積した経験と知見、ネットワーク力を活かしながら、事業領域や業界構造にとらわれることなく、新たな提案を行うイノベーターを目指し、プロ向け建材通販サイト「アウンワークス」や「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」などの新規事業を積極的に展開しています。



【会社概要】

野原ホールディングス株式会社

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：2017年1月5日

資本金：4億8,000万円

代表取締役社長：野原 数生

URL:<http://www.nohara-inc.co.jp>

【本リリースに関する問い合わせ先】

野原ホールディングス株式会社 社長室(担当：齋藤、中島)

e-mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp / TEL：03-3357-2231